

競技注意事項

自然災害や感染症拡大状況等によっては、大会中であっても中止、中断する場合があります。

1, 競技規則について

本大会は、2026年度公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則ならびに本大会要項及び競技注意事項、申合せ事項によって実施する。

2, 練習について

練習は係員の指示により実施する。原則として、その日に競技のある選手のみとする。

- (1) 本トラックでの練習は、競技開始30分前まで開放するが、練習はその日の出場選手のみとする。
フィールド競技の各ピットは、競技に支障がない範囲で開放するが、競技役員の指示に従って使用すること。
- (2) 直線走路および、バックストレート外側を常時開放する。直線競技実施時には、バックストレートの一部を開放する。雨天走路での練習は、原則すべて禁止する。但し、雨天時の場合は別途指示する。
- (3) 雨天走路での走幅跳の競技中における調整練習は、今年度の会場使用制限に伴い行わない。
- (4) 投てき競技種目の練習は、投てきピットのみとし、投てきピット以外での練習は、禁止する。(メディシンボール等も禁止)
- (5) ウォーミングアップの際の本競技場内、及び直線走路の「レーン」等の使用区分、時間割り当てについては、「ウォーミングアップ会場とその形態」に記載の使用方法、使用可能時間を参照。指定されたウォーミングアップ会場において行い、お互いに譲り合って練習すること。

3, 招集及び入退場について

招集所は南器具庫外(第2ゲート外付近)に設置する。

- (1) 招集時刻
招集時刻は競技開始時刻を基準として下記のとおりとする。
 - ①トラック競技は競技開始の20分前に招集完了とする。ただし、組数の多い予選種目については時間差を設けて招集を行う。詳しくはプログラムの競技日程で確認すること。
 - ②フィールド競技は競技開始の45分前に招集完了とする。ただし、砲丸投の決勝は30分前に招集完了とする。棒高跳びは現地招集とする。
 - ③リレーのオーダー用紙は、招集所で配布する。オーダー用紙は、各ラウンドの第1組目の招集完了時刻の1時間前までに招集所に提出すること。
※ただしリレーの予選においては特例措置として8時30分までにオーダー表提出を行うことを認める。
 - ④混成競技は、トラック種目20分前、フィールド種目30分前に招集完了とする。三種目全て招集所で招集を行う。
- (2) 招集手順
 - ①招集開始時刻から完了時刻までの間に招集所に集合し、点呼を受ける。その際、競技役員にアスリートビブスと競技用シューズ、衣類及び競技場内への持ち込み物品等の確認を受ける。代理人による最終点呼は認めない。(800m以上のトラック種目は、腰ナンバーを受け取る。返却不要。)
 - ②招集所でのチェックを受けた選手は、以下のように移動する。
トラック種目・・・競技役員の誘導に従って一斉にトラックのスタート地点に移動する。
フィールド種目・・・招集後各自でフィールドのピットに移動する。
- (3) 招集の注意事項
 - ①出場すべき競技種目を欠場する場合は、招集完了時刻前までに招集所の競技者係欠場届けを提出する。
 - ②招集完了時刻に遅れた場合、競技者は棄権したものとして処理される。
- (4) 入退場は係員の指示に従う。競技が終了した競技者は、第4ゲートより競技場外へ退場する。

4, アスリートビブスについて

- (1) 各競技者は、プログラムに記載された番号と同じアスリートビブスをユニフォームの胸部または背部につける。男子は黒字、女子は赤字とする。※規格は、24cm×16cmとなる。
- (2) 跳躍競技に出場する競技者は胸部または背部どちらか片方でもよい。
- (3) 800m以上の中・長距離の競技に出場する競技者は腰ナンバー標識(シールタイプ)をパンツの右側後方につける。腰ナンバー標識は招集所で配布する。

5, 競技運営について

本大会は下記の主な留意事項に基づいて運営する。

- (1) 競技運営上、競技日程及びピットを変更することがある。また、地震・雷雨等の自然災害やJアラート発動の際は、競技を中断し安全が確認された後に再開する。
- (2) トラック及びフィールド内にはその競技を行う競技者並びに役員（審判および該当補助員）以外は立ち入ることができない。フィールド競技は、コーチングエリアを設ける。競技者とコーチがコミュニケーションをとる場合のみとするので、エリア内に常駐しないこと。
- (3) 競技者がレコーダー、ラジオ、CD、トランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を競技場内に持ち込んだり、使用しての助力は許されない。着用して使用する心拍計、速度・距離計、ストライドセンサー、その他の類似の機器を使用する場合は、他者との通信が使用不可能なものに限る（TR6.4.4）
- (4) 録画映像を提供する者のすぐ近くの位置（コーチングエリア）であれば、競技者は画像を撮影した人（顧問）とコミュニケーションを取りながら一時的に録画再生機器を手にしてもよい（TR6.4.5）
- (5) トラック競技の着順及び計時は原則として写真判定で行う。
- (6) タイムにより次のラウンドの出場者を決める場合、写真判定主任が同記録者の写真を拡大して0.001秒単位の時間を判定して進出者を決定する。それでも決められないときは、当該競技者の抽選とする。
- (7) セパレートレーンで行うトラック競技では、競技者は安全確保のため、フィニッシュライン通過後も自分の割り当てられたレーン（曲走路）を走り、他の競技者の妨害をしない。
- (8) 800m競技予選におけるスタートは、男女ともにオープンスタートで実施する。
- (9) **トラック競技は予選タイムレースで決勝進出者を決定する。1500m, 3000m, 1年100mHはタイムレース決勝とする。1年走幅跳は、3回の試技で順位を決定する。**
- (10) リレー競技におけるチーム編成は次の通りである。
 - ①リレーチームの編成メンバーは、どのラウンドにおいてもその競技会のリレーまたは他の種目に申し込んでいる競技者であれば出場することができる。
 - ②どのラウンドにおいても出場するメンバーのうち、2人はリレーに申し込んだ競技者でなければならない。
 - ③最初のラウンドに出場した競技者は、その後のラウンドを通して、2人以内に限り他の競技者と交代することができる。
 - ④交代とは、一度出場した競技者が他の競技者と代わることであり、最初のラウンドにおいてリレーに申し込んでいない競技者が出場する場合は交代とみなさない。
 - ⑤前のラウンドに出場した競技者が一度他の競技者と代わり、再びリレーチームに戻る場合は、新たな交代競技者数には加算しない。
 - ⑥リレー競技においてはチームの出場者はデザイン、配色が同じであれば選手によってユニフォームのタイプを選択することができる。
 - ⑦4×100mR競技における第2, 第3, 第4走者は、自チームで用意する最大50mm×400mmの粘着テープをマーカーとして1ヶ所使用することができる。なお、競技終了後、使用したマーカーは責任を持って取り除くこと。
 - ⑧テイクオーバーゾーンは30mとし、次走者のスタートはゾーン内からスタートしなければいけない。
- (10) フィールド競技における競技場内での練習は審判員の指示により行う。
- (11) 走幅跳、棒高跳に出場する競技者は助走路の外側に主催者の準備したマーカーを2個までおくことができる。
- (12) 棒高跳に出場する競技者は支柱を自分の希望する位置に移動してもよい。
- (13) 混成競技では1種目でもスタートしなかったか、また、1回でも試技をしなかったときは、それ以降の種目に参加することは許されず、競技を棄権したものとみなされる。
- (14) 各レースで不正スタートは、混成競技を除き、一度の不正スタートでも責任を有する競技者は失格とする。混成競技は、不正スタートを2回目以降に行った選手が失格となる。スタートの合図については英語で行う。※スタート時の不適切行為に関しては審判長によって警告「イエローカード」を与えられることがある。2枚の「イエローカード」の提示を受けた競技者には「レッドカード」が提示され、当該種目のみを失格とする。ただし、競技会からは除外しない。

6, 男子1年100mHの規格

（高校女子と同じ規格） ハードルの高さ 0.840m ハードル間の距離 8.50m

7, 走高跳, 棒高跳決勝におけるバーの上げ方について (抽選会時に決定)

種目	性別	競技	練習
走高跳	男	1m35-1m40 - 45 - 50 - 55 - 60・・・5 cmきざみ	1m30 1m50
	女	1m20-1m25 - 30 - 35 - 40 - 45・・・5 cmきざみ	1m15 1m35
三種 走高跳	男	1m30-1m35 - 40 - 45・・・5 cmきざみ	1m25
	女	1m15-1m20 - 25 - 30・・・5 cmきざみ	1m10
棒高跳	男	1m80-1m90 - 2m00-2m10・・・10 cmきざみ	1m70 3m00
	女	1m60-1m70 - 1m80-1m90・・・10 cmきざみ	1m50 2m50

- (1) 天候その他の関係で変更するときがある。
- (2) 第1位を決めるためのバーの上げ下げは, 走高跳で2 cm, 棒高跳で5 cm 刻みとする。
- (3) 滑り止め (炭酸マグネシウム) は, 必要な競技者は各自で準備すること。

8, スパイク (シューズ) の制限

- (1) WA承認リストにあるシューズを使用していることを前提に招集所や受付にてチェックは不要となる。ただし, 審判や審判長の権限により求められた場合はシューズをチェックする。TR5. 13. 3 (国内TR5. 2) 承認リストにない場合は事前申請が必要であるが, 中学生の大会では事前申請は不要。
- (2) 本競技場におけるスパイクピンの数は1 1 本以内とする。また, スパイクピンの長さは9 mm以内とする。走高跳については1 2 mm以内とし, 先端の直径は4 mm以内でなければならない。
- (3) フィールド競技用シューズのWA規則第1 4 5 条(TR5. 5)適用除外措置については, 日本陸連の移行措置に則り競技を実施する。ただし, 砲丸投に関してはスローイングシューズ以外のシューズの使用を認める。

9, 抗議について

- (1) 競技の結果または行為に関する抗議は, その種目の正式発表後3 0 分以内に監督が直接審判長に口頭で申し出なければならない。
- (2) 次のラウンドが行われる競技種目では, その結果が正式に通告されてから1 5 分以内に申し出なければならない。
- (3) 裁定に不服の場合は委託金 (2 万円) を添え, 総務員を通じてジュリーに文書で申し出る。なお, ジュリーの裁定が最終決定となる。委託金は, 抗議が認められない場合は没収される。

1 0, 学校対抗得点について

- (1) 決勝8位までに得点を与える。1位8点, 2位7点・・・8位1点とする。
- (2) 学校対抗は男女別とし, それぞれの合計得点で多い順に順位を決定する。ただし, 地域スポーツクラブは, 表彰の対象外とする。
- (3) 1位が同点の場合は優勝種目の多い方を1位とする。それ以外の同点の場合は, 同順位とする。
- (4) 男女1年1 0 0 mHと男女1年走幅跳は学校対抗得点に含まない。ただし, 8位まで賞状を授与する。

1 1, 表彰について

- (1) 各種目の8位まで賞状を授与する。個人, 総合とも8位まで表彰する。決勝終了後ただちに入賞者は, 表彰者控え場所に集合すること。その際, 表彰係の指示を受けること。
- (2) 服装は, 迷惑撮影・盗撮防止の観点から, 競技用ユニフォームの着用は禁止する。上下運動着等で表彰を受ける。

1 2, その他

- (1) 応急処置, その他の健康上の問題が生じた場合は, 本部に連絡すること。救護本部は雨天走路に設置する。応急処置は行うが, 以後の責任は負わない。
- (2) 商標について
 - ・「競技会における広告及び展示物に関する規定」を遵守すること。これに違反した場合は, 主催者で処理する。
 - ・競技者は, 招集を受ける前にテープで対応しておくこと。また, 競技役員に指摘された場合は, その指示に従うこと。

(3) 応援について

①集団応援は他の競技の支障のないように行う。特に、フィールド競技の進行に配慮する。

②芝スタンドでの集団応援は、通路を空けて実施すること。なお、手すりによりかかったりしないこと。

(4) 応援横幕・のぼりの設置は、バックスタンドとサイドスタンド最上部のみ可とする。

(5) 迷惑撮影防止対策について

迷惑撮影防止対策についてアスリートの盗撮、写真・動画の悪用、悪質なSNS投稿は卑劣な行為であり、本競技会において、以下の項目を設けることとする。

- ・不審な行動を目撃した場合には、速やかに競技役員に知らせる。

- ・撮影可能エリアは、**指定された保護者応援エリアのみ**とする。また、撮影可能エリア内であっても、一眼レフカメラ、望遠レンズの使用はできない。

- ・撮影禁止エリアでは、スマートフォン・タブレット端末を含め撮影機器は、使用禁止とする。

- ・主催者及び競技者の承諾を得ずに、撮影した画像・動画をWeb上（SNS等含む）にアップロードしたりする事は控えること。放映権及び肖像権の侵害となる場合がある。

【例外事項】

- ・主催者の許可を受けて、専用ビブス等を着用した者は、競技場内での撮影許可領域での撮影を許可する。

- ・監督、コーチによるコーチングエリアからの撮影は可能。ただし、大会関係者がわかるネームタグなどを身に付けること。

- ・生徒が芝スタンドから自チームの競技者を撮影することは可能。ただし、撮影許可証を携帯すること。

(6) 室内走路雨天走路の利用は、原則禁止とする。雨天時は、追って指示する。また、室内走路に敷物等を利用し、場所を確保して待機場所として利用することを禁止する。

(7) ゴミは、原則として各校で持ち帰ること。

(8) 置き引き、盗難等の発生する恐れがあるので各自の持ち物や貴重品の管理に十分注意すること。

(9) 中学生らしくない身だしなみ（頭髮の染色、髪型、化粧、アクセサリ等）の選手の出場は認めない。

(10) 大会本部は雨天走路中央のダックアウトに設置する。不明な点は、大会本部に問い合わせること。